

金沢美術工芸大学

KANAZAWA COLLEGE OF ART

社会連携研究成果報告書 2022

人に夢を。 地域に活力を。 ビジネスに未来を。

金沢美術工芸大学の 創造力を、 あなたの事業に お役立てください。

金沢美術工芸大学では、社会連携センターを拠点に、広く企業や研究機関・公共団体などの連携活動を推進しています。

POLICY 理念

金沢美術工芸大学は社会貢献を、教育と研究に並ぶ大学の使命と位置づけ、地域連携・産学連携を通して積極的に社会貢献を行います。

1. 本学の持つ美術工芸分野の専門知識や技術、社会連携で得られた成果を広く社会に還元します。
2. 地域の産業と積極的に連携を図り、地域社会の活性化に貢献します。
3. 社会との連携活動を体験することで、より実践的に社会に寄与できる人材を育成します。

SYSTEM 活動体制

テーマの規模や内容、状況に応じて、様々な研究方法・スタイルを準備しています。詳細はお問い合わせください。

研究制度

共同研究

企業や教育機関より研究者・研究経費等を受け入れ、共通の課題について対等な立場で研究を行う制度

受託研究

企業等から委託を受け、委託者の負担する経費で研究を行い、その成果を委託者に報告する制度

研究体制

プロジェクト型（課外活動型）

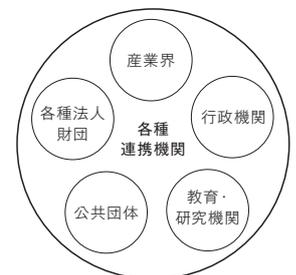
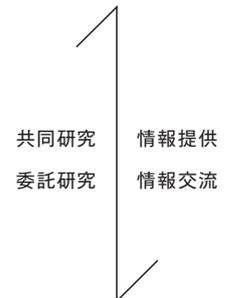
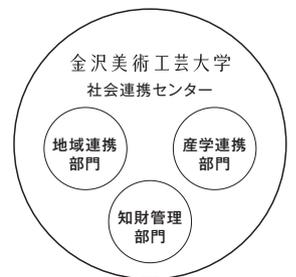
教員の指導により研究を推進。学生の新しい視点での発想、現実性の高い成果が期待できます。

プロフェッショナル型

教員との研究。ハイレベルで実践的な研究成果が期待できます。

NETWORK 社会連携

他大学・研究機関とのパートナーシップを深め、実現性の高いハイクラスの研究を推進します。



FLOW

活動の流れ

以下のような、求められる課題や相談に対し、よりよき成果をめざして、確かな体制と綿密プロセスをベースに研究を進めています。

- 商品の企画・開発にデザインを利用したい
- CI・ブランド開発にデザインを活用したい
- マーケティングにデザインを活用したい
- 店舗・施設の開発にデザインを活用したい
- 伝統工芸の専門技術を商品開発に活用したい
- 美術（芸術）分野の専門知識を商品開発に活用したい



- ・ 研究目的
- ・ 研究体制・研究方法
- ・ 研究期間・研究予算
- ・ 研究成果予測
- ・ その他事務手続き等



- ・ 経費明細
- ・ 支払条件等



- ・ 知的財産権の取扱い
- ・ 研究成果の公表時期
- ・ 機密保持に関する取り決め等



- ・ オリエンテーション
- ・ 調査
- ・ 研究・デザイン制作等
- ・ プレゼンテーション
- ・ 試作
- ・ 製品化等

事例に応じた研究内容をご用意できます。



- ・ 研究成果報告書の作成
- ・ 特許等の出願・契約等の締結

FIELD

活動領域

美術・工芸・デザインから芸術学まで、本学に蓄積された有形無形の資産をベースに、気鋭のプロフェッショナル達がハイレベルの研究活動を推進します。

本学の教員は、それぞれが独立したプロの作家、デザイナー、研究者です。活躍する分野はもちろん、年齢、経歴、ネットワークも様々な人材が、才能にあふれる学生たちとともに連携事業の研究活動を推進します。

美術系

日本画 / 油画 / 彫刻 / 芸術学

デザイン系

視覚デザイン / 製品デザイン / 環境デザイン / ファッションデザイン

工芸系

陶磁 / 漆・木工 / 鍍金・彫鍛金 / 染・織

専門領域分野

ヴィジュアルコミュニケーション
 広告デザイン
 サインデザイン
 映像・メディアデザイン
 Web デザイン
 パッケージデザイン
 ユニバーサルデザイン
 インターフェイスデザイン
 情報機器デザイン
 輸送機器デザイン
 家具デザイン
 生活関連用品デザイン
 都市計画デザイン
 建築デザイン
 インテリアデザイン
 ディスプレイデザイン
 ランドスケープデザイン
 ファッションデザイン
 テキスタイルデザイン
 陶芸
 漆芸
 木工
 彫鍛金
 鍍金
 染織
 モニュメント
 壁画
 材料・修復

過去5年間の社会連携研究数

年 度	総 数	地域連携事業	産学連携事業	連携協定事業
2018 (H30)	32	21	8	3
2019 (R1)	29	13	11	5
2020 (R2)	17	8	7	2
2021 (R3)	27	13	13	1
2022 (R4)	29	20	8	1
計	134	75	47	12

※報告書掲載数は複数年に渡る事業も含む。

162 >> 181

162	金沢マラソン 2022 完走メダルデザイン	6
163	かなざわ時計	7
164	ホスピタリティアート・プロジェクト 第30回 光の回廊シリーズ 12「colors」 ワークショップ・作品展示	8
165	ホスピタリティアート・プロジェクト 第31回 第11回 ホスピタルギャラリー	9
166	かなざわエコフェスタ 2022 ダンボールエコアート展事業	10
167	金沢 MaaS コンソーシアム ロゴマークのデザイン制作	11
168	バス停木質空間創出事業における ベンチのデザイン及び制作	12
169	建設現場仮囲いデザイン展開 公共工事イメージアップ事業	13
170	木の文化都市・金沢推進事業者 登録証のデザイン制作	14
171	金沢市屋外広告物ガイドラインの改定	15
172	いしかわ百万石文化祭 2023 全国障害者芸術・文化祭プレ展 イン・ユア・リズム	16
173	いしかわ百万石文化祭 2023 道の駅学生アートプロジェクト	17
174	3R 啓発デジタルコミック発信事業	18
175	北陸新幹線延伸に係る新たな観光誘客ポスターの提案・制作等	19
176	校章デザイン提案 金沢市立長町中学校 / 金沢市立朝霧台小学校	20
177	ユネスコ創造都市新ロゴマーク デザイン作成	21
178	金沢美大選抜展 in 問屋町 2023	22
179	「触れてみる彫刻展」ならびに「ハンズオン展示体験学習」	23
180	「世界一長いベンチ」改修の デザイン監修及び看板改修のデザイン制作	24
181	しいのき迎賓館 光のアート	25

162

金沢マラソン 2022 完走メダルデザイン



1次選考通過デザインモデル 4案



オンライン大会のバーチャルメダル 3種

【委託者】
金沢市 文化スポーツ局 金沢マラソン推進課
【期間】
2022年3月—2023年3月
【研究体制】
プロジェクト型
【担当教員】
浅野 隆 教授 デザイン科製品デザイン専攻

【参加学生】
市川 玲音 製品デザイン専攻3年
喜田 夏美 製品デザイン専攻3年
北野 実優 製品デザイン専攻3年
木戸 宏太郎 製品デザイン専攻3年
菅原 菜月 製品デザイン専攻3年
杉本 千夏 製品デザイン専攻3年
谷 水彩紀 製品デザイン専攻3年
本間 智大 製品デザイン専攻3年

【開発日程】	
2022年	
3月22日	オリエンテーション Watch 浜辺さんからテーマの 説明／事務局から仕様（条件 等）の説明
4月18日	アイデア発表
4月28日	第一次アイデア選考→4案に
5月11日	選考された4案、 デザイン微修正提出
6月9日	デザインモデル完成、 マラソン推進課に提出 最終案決定 試作制作開始～4週間
7月下旬	量産前試作品の 提示・確認・修正
8月中旬	量産開始 8～9週間
10月12日	市長への完走メダル 完成報告・記者発表
10月30日	金沢マラソン2022当日 メダル配布場所でボランティア としてランナーに配布



記者発表



デザインが採用された菅原さん（メダル配布場所）

金沢マラソン 2022 は、12,011 人の参加で、令和 4 年 10 月 30 日に開催された。天候はくもり、気温 13℃。時折日も差す絶好のマラソンの日よりとなり、完走者は 11,606 人。96.6%の完走率となった。その完走者へ贈る完走メダルを今年も地域連携事業として受託し、学生 8 名と共にデザイン制作を行った。9 案のアイデアから 1 次選考で 4 案に絞り、デザインモデルを制作して最終選考した結果、菅原菜月さんの案が採用された。コンセプトは「さらなる前進」を願い、疾走するランナーが足を跳ね上げる瞬間を捉え、抽象化し、連鎖するラインを層として重ねることで大会の歴史を表現した。

本年度から、惜しくも選ばれなかった残りの 3 案は、オンライン大会のバーチャルメダルとして採用されることになった。

163

金沢市の市役所前の大型サイネージにて、学生の制作した時刻をお知らせする映像が毎時きっかりに流れる。映像は20秒ほどで、学生全員が繰り返し放映される。映像は必ず開始10秒で時刻を表す数字が出現するようにデザインされている。

かなざわ時計



学生の作品が上映される様子



授業での発表の様子

【委託者】

金沢市 都市政策局 広報広聴課

【期間】

2022年4月—5月

放映期間:

2022年9月1日—2023年3月31日

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

下浜 臨太郎 講師 デザイン科視覚デザイン専攻

【参加学生】

竹萬 拓人	視覚デザイン専攻2年
角田 大輔	視覚デザイン専攻2年
井田 有紀	視覚デザイン専攻2年
城戸 咲喜花	視覚デザイン専攻2年
窪田 陽菜	視覚デザイン専攻2年
後藤 菜瑠	視覚デザイン専攻2年
坂口 歩	視覚デザイン専攻2年
武部 由季	視覚デザイン専攻2年
谷口 咲	視覚デザイン専攻2年
寺地 ユカリ	視覚デザイン専攻2年
仲谷 健輔	視覚デザイン専攻2年
長浜 隼翔	視覚デザイン専攻2年
中村 知香	視覚デザイン専攻2年
橋本 珠く	視覚デザイン専攻2年
林 花	視覚デザイン専攻2年
藤枝 駿太郎	視覚デザイン専攻2年
藤本 裕人	視覚デザイン専攻2年
丸田 哲平	視覚デザイン専攻2年
宮澤 つくみ	視覚デザイン専攻2年
山本 彩香	視覚デザイン専攻2年
山本 美月	視覚デザイン専攻2年

【開発日程】

2022年

4月11日 練習制作ワークショップ01

4月26日 時報制作開始

5月20日 時報プレゼンテーション

164

ホスピタリティアート・プロジェクト 第30回 光の回廊シリーズ 12「colors」 ワークショップ・作品展示

「ホスピタリティアート・プロジェクト (HAP)」は、金沢市立病院と本学との連携により、医療分野におけるアートの潜在的な可能性を探求する事を目的とした研究である。プロジェクト第30回の企画となる、「光の回廊シリーズ～その12」ワークショップ・展示は、「colors」と題し実施された。病院1階待合ホール大ガラスに患者、医療者、学生の協働によりステンドグラス風の装飾を施されるこのワークショップ・展示企画は、夏の恒例行事として病院関係者および周辺地域に受け入れられている。

実施にあたっては新型コロナウイルス感染症の予防に十分な配慮が必要であった。図案会議に始まり、大学での下準備、ワークショップ、展示、撤収に至るまで、無事に終えることができた。このプロジェクトは医療環境に彩りの空間を現出させ、通院・入院患者、医療関係者の日常に癒しの効果を与えている。

プロジェクトを成功裏に終えることができた要因は、美大と市立病院との連携もさることながら、協力学生の献身的な作業に依るところが大きい。この活動を美大の美術教育に還元させる必要を感じている。



図案会議 (過去の図案を並べて)



学内での制作

【委託者】	金沢市立病院
【期間】	館内制作: 2022年9月11日～13日 ワークショップ: 2022年9月13日 13:00～16:00 館内展示: 2022年9月13日～10月5日
【研究体制】	プロジェクト型
【担当教員】	三浦 賢治 教授 美術科油画専攻 ホスピタリティアート・コーディネーター 岩崎 純 准教授 美術科油画専攻
【協力】	横川 善正 金沢美術工芸大学名誉教授 金沢市立病院 ホスピタリティアート・プロジェクト顧問 棚部 芹 金沢美術工芸大学油画専攻実習助手

【参加学生】	上月 花織 日本画専攻1年 小川 信幸 油画専攻1年 長沖 純 油画専攻1年 小寺 真悠 芸術学専攻1年 佐藤 彩乃 芸術学専攻1年 服部 未来 芸術学専攻1年 三隅 玲那 視覚デザイン専攻1年 上田 千裕 彫刻専攻2年 奥村 花菜 彫刻専攻2年 竹内 楓 彫刻専攻2年 遠藤 花佳 油画専攻3年 金森 琴巨 油画専攻3年 金丸 遥香 油画専攻3年 瀬ノ口 紗恵 油画専攻3年 藤田 怜子 日本画専攻4年 米田 麻衣 油画専攻4年 伊東 綾乃 修士課程 環境デザインコース1年 山田 美智子 修士課程 絵画専攻油画コース2年 伊藤 真里奈 博士後期課程 油画分野1年 土井 菜々恵 東京都立大学 人文社会学部4年
--------	--

【開発日程】	2022年
6月21日	HAP 説明会
7月12日	第1回企画会議
7月25日	第2回企画会議 (テーマ会議)
7月下旬～8月上旬	材料確認、発注
9月2日	図案設計図完成
9月6日～9日	大学での制作、下準備
9月8日	市の広報にお知らせ (市立病院発信)
9月10日	作業用足場設置 (業者委託)、脚立等の備品を病院に搬入 (展示撤収用)
9月11日	市立病院での設営、制作 9:45～17:00 市立病院に集合、ガラスシート張り替え、カラーセロファンによる大ガラスの装飾開始
9月12日	9:30～17:00 市立病院での制作
9月13日	9:30～17:00 市立病院での制作 13:00～16:00 ワorkshopを経て完成、10月5日まで展示
10月5日	15:00～撤収 (セロファン剥がし、資材搬出)



病院での制作



会場風景

165

ホスピタリティアート・プロジェクト 第31回 第11回 ホスピタルギャラリー

ホスピタリティアート・プロジェクトは、金沢市立病院と本学との連携により、医療分野におけるアートの潜在的な可能性を探求する事を目的とした研究である。プロジェクトの一環であるホスピタルギャラリーは、アートが患者さんの治療と生活の質の改善を手助けし、病院が地域社会における身近な交流の場となることを目的として平成24年度に第1回展が開催された。以後出品点数を増やしながら周辺地域に根付いた活動として共感を得ている。病院の待合ホールに期間限定の「美術館」を設置するこの試みは全国的にも珍しく、各メディア・学術方面からも注目されている。

前年度の第10回展では、感染症予防の観点からWEBサイト上でのデジタルギャラリーとして開催されたが、2022年度の第11回展は「いしかわ百万石文化祭2023」の一環として、感染症予防に配慮しつつも通常の形態による病院内会場展示の形で開催され、160点余の作品で会場が彩られた。



会場風景



会場風景

【委託者】

金沢市立病院

【期間】

2022年7月～10月
ギャラリー開催：
2022年10月8日～10日

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

三浦 賢治 教授 美術科油画専攻
ホスピタリティアート・コーディネーター
岩崎 純 准教授 美術科油画専攻

【参加学生】

遠藤 花佳 油画専攻3年
第11回展ポスター・募集要項
表紙デザイン

【金沢市立病院 ホスピタリティアート・プロジェクトメンバー】

高田 重男	病院事業管理者
松下 栄紀	院長
瀬野 晶子	副院長、小児科長
中西 清香	耳鼻咽喉科長
中町 麻紀子	看護部副部長
安土 佳宏	放射線室副室長
海道 一恵	臨床検査室
角野 忠昭	臨床検査室
新谷 圭子	薬剤室
川崎 克弘	事務局
越原 智弘	事務局
後藤 敬仁	事務局
辻 湧介	事務局

【市民アドバイザー】

野川 勝紀
富地 晃裕
駒井 順子

【開発日程】

2022年
7月4日 第1回企画会議
7月～8月 募集要項、ポスター、チラシ、DM作成
9月21日 第2回企画会議
9月下旬～10月5日 作品目録作成
9月25日～10月5日 作品搬入
10月4日 開催案内(報道関係、FB)
10月8日～10日 ギャラリー開催



会場風景



会場風景

166

かなざわエコフェスタ 2022 ダンボールエコアート展事業

2022年10月9日かなざわエコフェスタの会場内に展示するダンボールエコアート作品の制作・展示を行った。

今年もダンボール課題で制作した作品を展示させていただいた。

視覚デザイン専攻1年生のダンボール課題は、使用済みのダンボールのみを使い自由に立体作品を制作する課題である。一つの素材から、切る、曲げる、剥がすなどの加工作業を通じて、ダンボールの特性を活かした表現を模索し、全方向からの鑑賞に耐えられる作品を制作する。

蔓延防止対策で展示予定が延期や会場変更するも、開催することができた。



会場内展示風景



【委託者】
金沢市 環境局 環境政策課
ヨシダ宣伝株式会社

【期間】
2022年7月～10月

【研究体制】
プロジェクト型

【担当教員】
樺島 脩 講師 デザイン科視覚デザイン専攻
下浜 臨太郎 講師 デザイン科視覚デザイン専攻
寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

【参加学生】
石渡戸 双葉 視覚デザイン専攻1年
稲田 萌花 視覚デザイン専攻1年
上野 紗椰 視覚デザイン専攻1年
漆畑 天音 視覚デザイン専攻1年
江川 依吹 視覚デザイン専攻1年
北 恭輔 視覚デザイン専攻1年
北尾 楓 視覚デザイン専攻1年
舛田 一葉 視覚デザイン専攻1年
坂口 華杏 視覚デザイン専攻1年
菅谷 美香 視覚デザイン専攻1年
外山 晴菜 視覚デザイン専攻1年
田中 日和 視覚デザイン専攻1年
馬杉 帆々香 視覚デザイン専攻1年
松澤 玄樹 視覚デザイン専攻1年
松下 和香 視覚デザイン専攻1年
三澤 空花 視覚デザイン専攻1年
三隅 玲那 視覚デザイン専攻1年
山口 慎平 視覚デザイン専攻1年
山下 愛連 視覚デザイン専攻1年
山下 尋 視覚デザイン専攻1年
吉田 明凜 視覚デザイン専攻1年

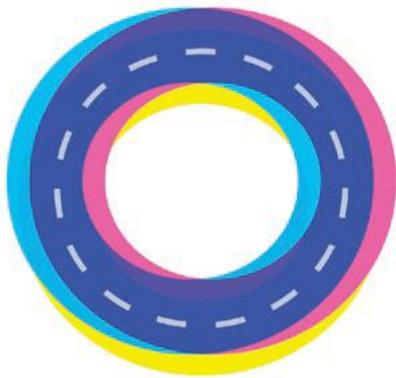
【開発日程】
2022年
7月19日 オリエンテーション
概要、課題条件説明
7月20日 制作開始
7月29日 プレゼンテーション
10月8日 金沢エコフェスタ期間中、
金沢市第2本庁舎にて展示
展示計画、展示ポスター、
展示レイアウト、搬出搬入
10月9日 戸室リサイクルプラザの展示
展示計画、展示ポスター、
展示レイアウト、搬入



集合写真

167

金沢 MaaS コンソーシアム ロゴマークのデザイン制作



Kanazawa
MaaS

【委託者】
金沢市 都市政策局 交通政策課
【期間】
2022年4月—10月
【研究体制】
プロフェッショナル型
【担当教員】
寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

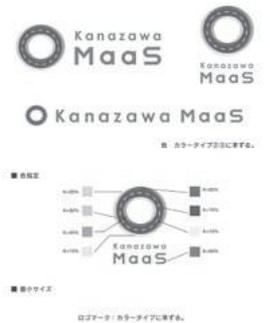
【協力】
デザケン 橋本 謙次郎

金沢市より、金沢 MaaS コンソーシアムの事業は、事業ごとに多様な主体がプロジェクトを個別に進めるため、共通のロゴマークを制作しコンソーシアムが実施する事業であることを端的に示し、信頼性を高めることを目的とすることを表す、ロゴマーク制作を依頼された。今回は地元石川県在住のアートディレクター3名からプロポーザルをおこない、決定した1名のアートディレクターと提案を進めて制作した。

【開発日程】
2022年
4月27日 制作候補3名のデータ送付
4月29日 1名に決定
5月9日 リモートにて オリエンテーション
5月31日 市役所にて、ロゴマーク提案
6月15日 方向性1案について修正作業
7月8日 デザイン案決定
8月1日 修正データ送付
8月15日 修正データへの返答、 データ修正作業
8月25日 最終データ納品
10月11日 ロゴマークお披露目



カラータイプ



モノクロタイプ



名刺デザイン使用例

168

バス停木質空間創出事業におけるベンチのデザイン及び制作

「木の文化都市・金沢」の創出にむけ、金沢ふらっとバス停周辺及び駐輪場周辺に「木」のしつらいを用い、武蔵ヶ辻・近江町市場バス停におけるベンチのデザイン制作と設置を行った。兼六園の徹軒灯籠を見立て、KOTOJI（読み：ことじ）と命名。九谷焼×地産材による金沢の素材と地場産業の技術に触れながら、待ち時間を楽しむパーソナルベンチである。ふらっとバスと街並みの景観に配慮したデザインを目指した。ベンチの形状やレイアウトは、視覚障害者や車椅子利用者にも配慮したバリアフリー設計で、短時間の着座に最適なサイズを実現した。また、耐候性を考慮して、座面には能登ヒバ、本体には金沢杉のCLT（大断面集成材）を用い屋外用の塗料で塗装し、脚部には戸室石を使用した。座面下のアクセント部には九谷焼きを挟み込み、見て触れて楽しむことができる。今後、絵付けや釉薬によって、様々なバリエーション展開も期待できる。また、これらは、部品ごとに交換できるサステナブルな設計になっている。



ベンチ着座時の様子
立ち座りがしやすいサイズ



設置場所での1/1モデル検討の様子
座面形状や高さ、設置間隔など検討

【委託者】
金沢市 都市政策局 歩ける環境推進課

【期間】
2022年7月～2023年3月

【研究体制】
プロジェクト型

【担当教員】
根来 貴成 教授 デザイン科製品デザイン専攻

【参加学生】
宮崎 貴裕 製品デザイン専攻4年

【協力】
株式会社 中東
九谷焼窯元 木田製陶
有限会社 前田石材
株式会社 ビルドランド
石川県視覚障害者協会
金沢市森林再生課
金沢国道維持出張所

【開発日程】

2022年

5月11日 事業内容事前打ち合わせ
6月～8月 調査、デザイン検討、プロトタイプ制作、図面作成
9月9日 金沢市歩ける環境推進課へのデザインプレゼンテーション
9月16日 陶器部分試作打ち合わせ
9月17日 木材部分試作打ち合わせ
9月20日 設置場所での1/1モデル検討
石川県視覚障害者協会、金沢国道維持出張所確認
9月20日 金沢林業振興協議会集積場にて市産材料確認
10月7日 陶器部型製作開始
10月26日 石材部分試作打ち合わせ
11月1日 塗料色出し確認
11月4日 ベンチ設置現場固定方法打ち合わせ
11月9日 ベンチ設置現場車椅子利用者確認
11月11日 陶器部完成確認
11月22日 石材部完成確認
12月14日 木部塗装仕上げ、組み立て完成品確認
12月16日 ベンチ設置



陶器部制作の様子
九谷焼原料花咲陶石本来の白磁を採用



木部本体制作の様子
金沢産杉材CLTをCNC加工

イメージ動画



169

建設現場仮囲いデザイン展開 公共工事イメージアップ事業

金沢市内および石川県内の建設工事現場にて安全安心を担保する仮囲い他、足場シートおよび単管バリケードを対象に調査、研究を実施した。

通常生活する中でほぼ毎日目にする工事現場へのまちなみを大切にする心遣いを形にする目的で協議を進めた。また地域への愛着や生活者に少しでも寄り添うことを目標にデザイン検証を繰り返すと共に実際のスケール感を重視、実験を行った。

受託者と協議を重ねることで最終的にはデザインを2パターン選抜して、より多くの人々に届くようになればとの結論になったが、この結果で仮囲い含む他の足場シート、単管バリケードへの応用、展開に繋がった。



参加学生へのレクチャー



レクチャー後の市内視察

[委託者]

金沢市 都市整備局 都市計画課

[期間]

2022年5月—2023年3月

[研究体制]

プロジェクト型

[担当教員]

角谷 修 教授 デザイン科環境デザイン専攻

[参加学生]

完了まで担当

秋本 ひより 環境デザイン専攻2年
 仮屋 柊元 環境デザイン専攻2年
 樋口 初喜 環境デザイン専攻2年

朝倉 文子 環境デザイン専攻2年
 魚野 真由 環境デザイン専攻2年
 太田 あいり 環境デザイン専攻2年
 古来 羽汰 環境デザイン専攻2年
 谷上 月渚 環境デザイン専攻2年
 満田 愛津美 環境デザイン専攻2年
 渡邊 咲希 環境デザイン専攻2年

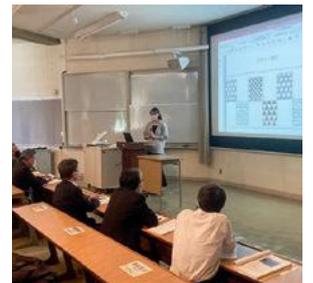
[開発日程]

2022年

5月10日 都市計画課打合せ
 6月27日 都市計画課打合せ
 7月10日 都市計画課、金沢建設業協会との全体打合せ
 8月3日 参加学生へのレクチャー、市内視察
 9月30日 参加学生アイデアプレゼンテーション
 10月3日 参加学生アイデア追加プレゼンテーション
 11月18日 アイデア選抜打合せ
 12月9日 最終デザイン案検討会

2023年

1月10日 最終デザイン案検討会
 1月18日 最終デザイン案への意見交換会
 1月27日 最終デザイン案への意見交換会と素材検討
 2月17日 1/2モデルでの素材検討会
 3月13日 最終デザインデータ提出



デザインアイデアプレゼンテーション



1/2モデルでの素材検討会

170

木の文化都市・金沢推進事業者登録証のデザイン制作

金沢市が創設する「木の文化都市・金沢推進事業者登録制度」において、登録事業者に交付するデジタル登録証のデザイン制作を依頼された。

視覚デザインコースの大学院生と打ち合わせを重ね、木の文化を感じられるよう、色合い、パターンなどを複数回提案してデザイン案が決定された。

今回制作した登録証のデザインについては、今後、木の文化都市を推進する取り組みの情報発信ツールにおいても活用していく予定。



登録証デザイン



表彰状デザイン

[委託者]
金沢市 都市整備局 都市計画課
[期間]
2022年4月～12月
[研究体制]
プロジェクト型
[担当教員]
寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

[参加学生]
糸井川 耕平 修士課程 視覚デザインコース2年

[開発日程]
2022年
5月10日 事前説明
6月8日 オリエンテーション
7月27日 プレゼンテーション
8月17日 プレゼンテーションについての返答
8月22日 修正PDFデータ納品
9月6日 修正データ出力納品
10月11日 賞状Illustratorデータ、現状のアイテム案データ納品
11月24日 マニュアル完成
12月23日 登録証交付式(村山市長同席)



プレゼンテーション



登録証交付式

172

いしかわ百万石文化祭 2023 全国障害者芸術・文化祭プレ展 イン・ユア・リズム

本事業は、いしかわ百万石文化祭 2023 実行委員会からの委託事業として、本学学生がキュレーションとグラフィックデザインを担当して実施された。会期は 2023 年 1 月 31 日～2 月 6 日、会場はしいのき迎賓館ギャラリー AB とした。学生は、創作活動の見学、作品調査、出品作品の選定と解説執筆、広報活動、展示プランの策定、展示作業、ギャラリートーク、広報印刷物とキャプションのグラフィックデザインを担当して担当した。

「イン・ユア・リズム」というタイトルには、作品・作家・鑑賞者それぞれがもつリズムの重なりや違いを作品鑑賞の中で楽しんでほしい、という意図を込めた。出品作品は、「金沢アート工房」「文化・芸術活動支援センターかける」所属の 8 作家の作品から選定した。展覧会を実施するという実践を通じて、「障害者アート」と呼称される分野のやりがいと課題を学生が肌身で感じ、学びを深める貴重な機会となった。展示内容、ギャラリートークともに大変好評だった。



しいのき迎賓館ギャラリー A の展示とギャラリートークの様子



展覧会 B2 ポスターのデザイン

【委託者】

いしかわ百万石文化祭 2023 実行委員会
協力：金沢アート工房
文化・芸術活動支援センターかける

【期間】

2022 年 6 月 - 2023 年 3 月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻
渋谷 拓 准教授 一般教育等・博物館学芸員課程

【参加学生】

徳光 粽子 芸術学専攻3年
長谷川 千紗 芸術学専攻3年
森松 明日香 芸術学専攻3年
伊藤 優汰 視覚デザイン専攻3年

【開発日程】

2022 年

- 6 月 3 日 県担当課、協力団体、美大による会議
- 6 月 20 日 参加学生の募集・説明
- 6 月 27 日 文化・芸術活動支援センター「かける」所属作家の作品調査
- 7 月 9 日 金沢アート工房の創作活動を見学
- 9 月 26 日 展覧会コンセプト案の発表と検討
- 10 月 4 日 しいのき迎賓館ギャラリー A-B を下見
- 12 月 21 日 (特非) 地域支援センターポレポレを表敬訪問

2023 年

- 1 月 30 日 作品の搬入・展示作業
- 1 月 31 日 展覧会 (~2 月 6 日)
- 2 月 4 日 学生によるギャラリートーク
- 2 月 7 日 作品の撤収・搬出作業
- 2 月 28 日 記録映像完成



展示プランの打ち合わせ風景



壁面と空間に展開した高野圭悟氏の展示と学生による作品の説明。ギャラリートークにて

173

いしかわ百万石文化祭 2023 道の駅学生アートプロジェクト

「道の駅学生アートプロジェクト」は、県内五大学の学生が道の駅や周辺地域の魅力を伝えるアート作品を制作し「いしかわ百万石文化祭 2023、第38回国民文化祭、第23回全国障害者芸術・文化祭」期間中に展示を行うイベントである。

今年度は、展示場所や条件を調査するとともに、作品の出来栄や耐久性など検証するための試作を行い、県内2カ所の道の駅（道の駅のと千里浜、道の駅高松）に金沢美術工芸大学と金沢学院大学の二大学が展示を行った。



作品 1



作品 2

【委託者】

いしかわ百万石文化祭 2023 実行委員会

【期間】

2022年5月—2023年3月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

岩崎 純 准教授 美術科油画専攻
高橋 治希 教授 美術科油画専攻
浜田 周 教授 美術科彫刻専攻

【参加学生】

石田 愛莉 修士課程 彫刻専攻1年
山岸 真弥 修士課程 彫刻専攻1年
上田 真理子 油画専攻4年
齋藤 千嘉 油画専攻4年
石島 基輝 彫刻専攻4年

【開発日程】

2022年

5月27日 大学にて概要説明
6月29日 しいのき迎賓館にて
打ち合わせ
7月11日 第1回プロジェクト会議
7月29日 現地調査（道の駅のと千里浜）
8月25日 現地調査（道の駅のと千里浜）
10月11日 取材（テレビ・新聞）
10月16日 作品設置
10月20日 現地調査
（道の駅のと千里浜・道の駅高松）
11月7日 第2回プロジェクト会議



作品 2（部分）



取材の様子

174

「家庭ごみの減量」をテーマとしたコミックを、多くの世代が利用している SNS を通じて発信し、これまでアプローチの難しかった学生を含む若年層をターゲットに分別やごみ減量に対する意識を高める目的で、文字だけでなくイラストレーションを用いた 4 コマ漫画形式で、親しみやすい内容を依頼された。制作を進める上では、テーマだけ設定されその内容を担当する学生がストーリーを考え、4 コマ漫画形式でまとめていくことになった。全体で 14 話制作し SNS 上で配信された。

3R 啓発デジタルコミック発信事業



分別をして埋立場を長く使おう



ごみ袋は密閉しよう

【委託者】	金沢市 環境局 ごみ減量推進課
【期間】	2022年4月—2023年2月
【研究体制】	プロジェクト型
【担当教員】	寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

【参加学生】	甲佐 優莉佳	視覚デザイン専攻 4年
	永田 幸	視覚デザイン専攻 4年
	東 百合恵	視覚デザイン専攻 4年
	松本 梓	視覚デザイン専攻 4年
	行本 美晴	視覚デザイン専攻 4年
	米原 奏衣	視覚デザイン専攻 4年
	青山 豊野	視覚デザイン専攻 3年
	赤松 弥彦	視覚デザイン専攻 3年
	伊藤 優汰	視覚デザイン専攻 3年
	梶崎 有花	視覚デザイン専攻 3年
	佐藤 璃青	視覚デザイン専攻 3年
	角田 優紀	視覚デザイン専攻 3年
	中尾 蘭	視覚デザイン専攻 3年
	中村 侑芽奈	視覚デザイン専攻 3年
	溝口 佳菜	視覚デザイン専攻 3年

【開発日程】	2022年
	4月18日 美大にてオリエンテーション
	6月17日 15人でランチ及びテーマ確認、美大学生テーマ決定
	7月1日 美大学生テーマ確認 表紙、下描き 10テーマ回収
	7月4日 市役所へ下描き送付
	7月21日 市役所より下描きへの返答
	8月9日 修正データ市役所へ送付、順次データ送付
	11月11日 市民エピソード大賞選定会議 (学生3名参加)
	11月~1月中旬 イラストデータやりとり
	2023年
	2月2日 表紙など調整
	2月27日 デジタルブックデータ完成



飲み会のとき片付けしてくれる人素敵♡



プロジェクトに参加してくれた学生たち

175

北陸新幹線延伸に係る 新たな観光誘客ポスターの提案・制作等

北陸新幹線延伸を見据え、金沢市の魅力を訴求するデザイン性の高いポスター制作を、前回制作した実績から依頼された。今回の制作ポイントは金沢を訪れる観光客の目線でビジュアル化し、イギリス人イラストレーターの豊かな表現力で描かれた「金沢駅 鼓門」と「浅野川大橋」をモチーフに表現した。いずれのポスターも、人を含めたその場所が、金沢の魅力ある観光地であるということ表現している。

新幹線延伸関連のイベントや国内外の旅行博、観光キャンペーン等で掲示することで、金沢の更なる魅力を発信し、観光誘客の推進に繋げる予定。



駅前バナー（駅側）

【委託者】
金沢市 経済局 環境政策課 誘客推進室

【期間】
2022年8月—2023年3月

【研究体制】
プロフェッショナル型

【担当教員】
寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

【協力】
電通西日本支社 木下 芳夫

【開発日程】

2022年

8月10日 市役所よりオリエンテーション
9月8日 アートディレクターとリモートミーティング
10月12日 アートディレクターとリモートミーティング
10月18日 市役所へデザイン案提案
11月2日 市長へプレゼンテーションをおこない方向性確定

2023年

1月13日 イラスト完成、ポスター案市役所へ提案
1月中旬～末 コピー案、書体について修正検討作業
2月3日 修正案市役所へ提案
2月8日 ポスター、バナーデザイン決定制作作業へ
2月27日 バナー審査会通過 制作へ
3月17日 ポスター納品



駅前バナー（近江町側）

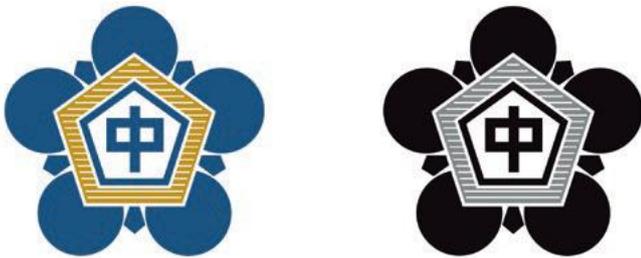
176

校章デザイン提案 金沢市立長町中学校 金沢市立朝霧台小学校

金沢市より、来春開校する長町中学校、朝霧台小学校の校章デザインを依頼された。過去、金沢市内の校章を制作した実績のあるアートディレクターを起用しデザインを検討し進めた。長町中学校は、小將町中学校を母体とし、長町小学校、松ヶ枝小学校、長土堀小学校、芳齋小学校の4校が統合した金沢中央小児童の進学先の集約を図るため、小將町中の前身「長町高等小学校」にちなみ新中学校の校名を決定した。また田上校下で児童増加が見込まれるため、新たに朝霧台小学校が設置される。立地する田上本町周辺が朝霧台地区と認知されていることから、新校名案が決定した。

これらの経緯などをふまえ、アートディレクターと提案を進め、校章を制作した。

金沢市立長町中学校 校章デザイン



【制作意図】

歴史や文化が色濃く残る金沢のまちなかの学校であることから、梅鉢を展開して、品格と伝統あるイメージを表現しました。五角形など5つの要素から構成されるデザインには、「心」・「技」・「体」・「知」・「友」の5つの意味が込められています。また、カラーも加賀五彩から藍と黄土をイメージしています。生徒たちが伝統を守りながらも、新しい時代を切り拓いてほしいという願いを込めました。

【委託者】

金沢市 教育総務課

【期間】

2022年9月—2023年3月

【研究体制】

プロフェッショナル型

【担当教員】

寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

【協力】

デザケン 橋本 謙次郎

金沢市立朝霧台小学校 校章デザイン



【制作意図】

学区が緑豊かな地域であること、また新校舎に木がふんだんに使われていることなどから「年輪」と「緑(葉)」をモチーフにしています。一年一年積み重ねていくように、児童たちが6年間という時を大切に過ごしてほしいという願いを込めました。

【開発日程】

2022年

- 9月9日 オリエンテーション
- 9月14日 デザイナー選定
- 10月30日 第一回目提案
- 11月7日 修正案提出
- 12月中旬 その他アイテムについて相談業務

2023年

- 2月3日 最終データ納品

177

現在、使用しているユネスコ創造都市ロゴマーク変更に伴い、変更されたデザインと親和性が高い金沢市が認定されている、クラフト分野のイメージを感じさせるような提案を求められた。視覚デザイン専攻学生と大学院生の4名と企画検討をすすめ、学生1名から2案以上の提案をおこない、最終的に学部4年生の提案が採用された。採用されたデザイン案は、地元デザイナーによりロゴマーク使用のガイドラインとしてまとめられた。

ユネスコ創造都市新ロゴマークデザイン作成



City of Crafts and Folk Art
KANAZAWA



City of Crafts and Folk Art
KANAZAWA



City of Crafts and Folk Art
KANAZAWA



つなげてステップアップをしていくというイメージで、梅の花弁を階段状以前から用いられている梅鉢の紋様をベースにデザインしました。古くから続く金沢の伝統工芸を、守り続けると同時に、さらにあたらしい創造にしました。

【委託者】
金沢市 創造都市推進委員会 (金沢市 クラフト政策推進課)
【期間】
2022年10月—2023年3月
【研究体制】
プロジェクト型
【担当教員】
寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

【参加学生】
山本 千穂 視覚デザイン専攻4年
乙幡 向日葵 視覚デザイン専攻3年
佐藤 璃青 視覚デザイン専攻3年
糸井川 耕平 修士課程 視覚デザインコース2年

【開発日程】
2022年
10月17日 市役所担当より オリエンテーション
11月14日 中間確認
11月30日 学生4人から提案
12月15日 副市長へ提案し、1案に決定
12月21日 決定案修正作業
12月28日 修正案 提出
2023年
1月初旬～2月初旬 類似調査
2月13日 調査確認終了、データ納品



中間ミーティング



プレゼンテーション

178

金沢美大選抜展 in 問屋町 2023

協同組合金沢問屋センターと本学は2010年5月18日、歴史ある「問屋町」の今後の魅力と活力ある街づくり推進にあたり、ビジネスの街という要素に加え、「文化の香り」を創出することを目指して協定を結び、以来様々な取り組みを行ってきた。

昨年度に引き続き「問屋町活性化事業」として、本学大学院修士課程 絵画専攻・彫刻専攻1年生および研究生15名による選抜展覧会を開催した。地域や問屋町で働かれている方々に個性豊かな作品から芸術表現の多様性や広がりを感じていただいた。出品者が自作を語るアーティストトークも行い、鑑賞のポイントを紹介した。また中作品、小作品の展示も行い、アートをより身近に感じていただけたものと思う。



ギャラリートーク



ギャラリートーク

【委託者】	
協同組合金沢問屋センター	
【期間】	
2022年9月—2023年2月	
展示会期間：	
2023年2月14日—19日	
【研究体制】	
プロジェクト型	
【担当教員】	
石田 陽介 教授	美術科彫刻専攻
荒木 恵信 教授	美術科日本画専攻
三浦 賢治 教授	美術科油画専攻

【参加学生】	
真酒谷 祥加	修士課程 絵画専攻日本画コース1年
新藤 美希	修士課程 絵画専攻日本画コース1年
前田 茜	修士課程 絵画専攻日本画コース1年
横山 茜	修士課程 絵画専攻日本画コース1年
王 冠賢	修士課程 絵画専攻日本画コース研究生
仁藤 里誉渚	修士課程 絵画専攻油画コース1年
武 超	修士課程 絵画専攻油画コース1年
王 一帆	修士課程 絵画専攻油画コース研究生
足立 雄亮	修士課程 彫刻専攻1年
石田 愛莉	修士課程 彫刻専攻1年
田中 宏和	修士課程 彫刻専攻1年
二宮 海	修士課程 彫刻専攻1年
林 和雄	修士課程 彫刻専攻1年
山岸 眞弥	修士課程 彫刻専攻1年
王 一多	彫刻専攻研究生
田嶋 千寛	視覚デザイン専攻4年

【開発日程】	
2022年	
9月15日	協同組合金沢問屋センター街 力発信委員会開催
11月1日	問屋町活性化事業 受託研究申込み
11月24日	大学院生を集めて説明会
11月30日	現地下見
2023年	
2月10日	出品作品確認
2月13日	搬入展示作業、 関係者向けアーティストトーク
2月18日	アーティストトーク
2月20日	作品搬出



ギャラリートーク



ギャラリートーク

179

「触れてみる彫刻展」ならびに 「ハンズオン展示体験学習」

本展覧会は視覚に障害がある児童生徒の身近な場所に彫刻作品を展示することで、時間をかけてゆっくりと作品を鑑賞する機会を設けることを目的とし、例年は石川県立盲学校の文化祭を挟んだ時期に、本学彫刻専攻の学生の作品を展示するものであるが、2年前から新型コロナ感染症の対策に万全を期し北陸日彫会との合同で1日限定の開催となっている。この展覧会は平成19年度から毎年開催しており、継続的に取り組むことで、視覚に障害がある児童生徒も鑑賞力が向上し、美術に親しむよい機会となっている。1日限定ではあるが、この状況下で開催できたことに意義を感じる。

また、玄関に常設されている「触れてみる彫刻コーナー」において、本学の学芸員資格取得を目指す学生を対象に、ハンズオン展示の体験学習に協力をいただいた。体験を通し博物館・美術館のバリアフリー化の現状や、ユニバーサル・デザイン、ユニバーサル・ミュージアムなどの考え方とその重要性を考える機会を得ることができた。



交流会



交流会



交流会

【委託者】

石川県立盲学校

【期間】

2022年6月—12月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

「触れてみる彫刻展」
石田 陽介 教授 美術科彫刻専攻

「ハンズオン展示体験学習」
渋谷 拓 准教授 一般教育等

【参加学生】

「触れてみる彫刻展」
杉浦 帆夏 彫刻専攻1年
服部 日和 彫刻専攻1年
陶山 咲楽 彫刻専攻1年

「ハンズオン展示体験学習」
博物館教育論受講者

【開発日程】

「触れてみる彫刻展」
2022年
11月7日 盲学校瀬川校長より「触れてみる彫刻展」の開催について（依頼）
11月中旬 彫刻専攻の授業作品から展示作品の選抜
12月15日 作品リスト 出品者の解説文送付
12月21日 作品搬入・展示 鑑賞会 作品搬出

「ハンズオン展示体験学習」
2022年
6月30日 「触れてみる美術コーナー」体験の依頼
7月12日 「触れてみる美術コーナー」でのハンズオン体験学習ならびに校内施設見学



博物館教育論 石川県立盲学校訪問



博物館教育論 石川県立盲学校訪問

180

「世界一長いベンチ」改修の デザイン監修及び看板改修のデザイン制作

志賀町増穂ヶ浦海岸に昭和 62 年に「世界一長いベンチ」が完成した。延長は 460.9m で県産材のアテ材で制作された。すぐ裏には「みちの駅とぎ海街道」があり、夏にイルミネーションを開催するなど、観光の要所となっている。しかし年月が経過し、その都度補修工事を行いながら維持してきたが、老朽化が激しいことから令和 5 年度にリニューアル工事を行うことになった。

現地の様子を確認し、ベンチの後に設置されている子どもたちの手形との関係を作るために、背もたれのないベンチを提案した。耐久性を高めるために能登ヒバ材の CLT (大断面集成材) に耐候性の高い塗料でコーティングを施すこととした。看板は道路から見える大型のものと、ベンチ近くに設置する小型のものを提案し、海岸、夕日、桜貝をテーマにベンチに座った人々のシルエットをデザインに取り入れた。完成は令和 5 年度中になる予定である。



ベンチ設置予定場所 (空撮)



現在のベンチの様子



現在の看板 (小) の様子

【委託者】

志賀町 商工観光課

【期間】

2022 年 6 月 - 2023 年 3 月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

安島 諭 教授 デザイン科製品デザイン専攻
根来 貴成 教授 デザイン科製品デザイン専攻
畝野 裕司 教授 デザイン科環境デザイン専攻

【参加学生】

森川 羽月 環境デザイン専攻 3 年
畝野 遥 製品デザイン専攻 1 年

【開発日程】

2022 年

6 月 20 日 事前ミーティング
7 月 27 日 キックオフミーティング
7 月 ~ 8 月 現地視察・デザイン開始
9 月 1 日 ベンチ案プレゼン
9 月 ~ 10 月 志賀町ベンチ見積
10 月 31 日 看板候補案プレゼン・ベンチ経過打ち合わせ

2023 年

2 月 13 日 看板案最終プレゼン・ベンチ図面チェック
2 月 21 日 看板データ納品
3 月 5 日 看板最終データ納品



提案のベンチイメージ
W406.9M/D600mm/SH430mm



提案の看板 (小)

冬の金沢を舞台にした歴史的建造物での音楽・アートの「冬の夜の誘客イベント」の一環として、しいのき迎賓館1階ガラス面に学生の制作した図案から数案を選択しカラーゼロハンで装飾を施した。その後ライティングを調整し「冬の夜に浮かびあがる光のアート」を演出した。

しいのき迎賓館 光のアート



作品サイズ：幅 4.4 m×高さ 3.2 m



試作展示

【委託者】

公益社団法人石川県観光連盟

【期間】

2022年10月—2023年3月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

岩崎 純 准教授 美術科油画専攻

【参加学生】

青嵩 なつ美	油画専攻3年
遠藤 花佳	油画専攻3年
金森 琴巨	油画専攻3年
金丸 遥香	油画専攻3年
川西 佑佳	油画専攻3年
原島 真優	油画専攻3年
松岡 琢未	油画専攻3年
奥村 花菜	彫刻専攻2年
竹内 楓	彫刻専攻2年
畑中 みずき	油画専攻2年
小川 信幸	油画専攻1年
長沖 純	油画専攻1年
服部 未来	芸術学専攻1年
三隅 玲那	視覚デザイン専攻1年

【開発日程】

2022年

10月31日 しいのき迎賓館にて概要説明

11月中旬 デザイン制作開始

12月22日 作品提出

2023年

1月初旬 プロデューサーによる審査

1月18日 ミーティング

2月2日 作品設置・プレゼンテーション



取材の様子



取材の様子

153 >> 160

153	「JAPAN プライドポテト 金沢の甘えび」パッケージデザイン提案	28
154	ビル関連顧客タッチポイント UI 研究「SDGs X 金沢」	29
155	これからの移動 2035	30
156	新しい価値を持ったメガネフレームのデザイン研究 「四季のメガネ」	31
157	ブラ包装レス梱包 デザイン及び運用方法の研究	32
158	東北レインボーハウス ワークショップのデザインと実施	33
159	冬季イルミネーションの空間演出計画	34
160	「金沢をイメージした水菓子容器の開発」デザイン研究	35

153

「JAPAN プライドポテト 金沢の甘えび」
パッケージデザイン提案

湖池屋 JAPAN プライドポテトは「日本の誇り」をプライドポテトにのせて発信することで、日本の風土・文化により育まれてきた歴史や精神に象徴される日本の素晴らしさを世の中に広めるプロジェクトで、これまでのデザイン案も好評だったことから、昨年に引き続き本学の学生にデザイン提案をしてもらい共同で金沢を盛り上げたいと依頼があった。

味の方向性は金沢を代表する甘えびで継続し、今回も最終6案を金沢市内小学生と市民などから投票をおこなう総選挙により広く意見を募集した。投票結果をふまえ、最終的に2案が商品化され全国発売されることになった。

売上の一部は、本学と金沢市へ寄付された。今回のプロジェクトも売上好調であり、次年度も継続することが決定している。



デザインが採用された学生



金沢市長、佐藤社長と記者発表

[委託者]	株式会社湖池屋
[期間]	2022年2月—9月
[研究体制]	プロジェクト型
[担当教員]	寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

[参加学生]	永田 幸	視覚デザイン専攻4年
	青山 豊野	視覚デザイン専攻3年
	麻生 香凛	視覚デザイン専攻3年
	伊藤 優汰	視覚デザイン専攻3年
	大谷 周	視覚デザイン専攻3年
	梶崎 有花	視覚デザイン専攻3年
	相良 実和	視覚デザイン専攻3年
	多賀 絵里衣	視覚デザイン専攻3年
	中尾 蘭	視覚デザイン専攻3年
	中村 侑芽奈	視覚デザイン専攻3年
	溝口 佳菜	視覚デザイン専攻3年
	宗像 紗未	視覚デザイン専攻3年
	坂口 歩	視覚デザイン専攻2年
	武部 由季	視覚デザイン専攻2年
	谷口 咲	視覚デザイン専攻2年
	中村 知香	視覚デザイン専攻2年
	宮澤 つぐみ	視覚デザイン専攻2年
	倉 雅晴	修士課程 視覚デザインコース2年

[開発日程]	2022年
	2月7日 オンラインにて、オリエンテーション
	3月3日 学生からの提案締め切り、湖池屋へ送付
	3月15日 1次選考通過者9名決定
	3月21日 1次選考通過者データ修正提出
	3月26日 2次選考通過者6名決定
	3月31日 2次選考通過者修正バージョン送付
	4月22日~5月20日 6案について、デザイン総選挙
	5月27日 最終2案商品化決定
	6月~8月 データ修正、校正、店頭ツールデータ作成など
	9月5日 市役所にて新商品発表会(村山市長、佐藤社長参加)
	9月5日 全国全チャンネル、湖池屋オンラインショップにて発売開始



湖池屋本社での校正立会い



プロジェクトに参加した学生たち

154

ビル関連顧客タッチポイント UI 研究
「SDGs X 金沢」

社会的要請の高い SDGs の視点から身近な金沢ならではの課題を発見し、住民・来訪者がより良い経験・価値を得、金沢の街を活性化するための製品・サービスのアイデアを創出するための共同研究である。

研究の初めにワークショップを開催してチーム毎に事前調査の結果を共有すると共に課題を発見した。金沢市企画調整課の職員の方から金沢市における SDGs の取り組みに関するレクチャーを受け再調査を実施した。その後スケッチとモデルによるアイデア展開を行い、中間発表会においてコンセプトを決定した。市内の様々な現場での実験と検証を重ねながら改良を加え、コンセプトと UX アイデアを精査した。最終発表会において、三菱電機統合デザイン研究所と本学をオンラインで繋ぎ、学生の提案を企業デザイナーの皆さんにも伝えることができた。学生は今回の共同研究を通して金沢市の歴史や文化、産業、生活様式などを改めて認識することができた。



市民から寄付された古着を使って、SDGs と裁縫を学ぶことができる着物リメイクサービス



ワークショップ



金沢市職員によるレクチャー

[委託者]

三菱電機株式会社 統合デザイン研究所

[期間]

2022 年 4 月—2023 年 3 月

[研究体制]

プロジェクト型

[担当教員]

村中 稔 教授 デザイン科製品デザイン専攻

[参加学生]

市川 玲音	製品デザイン専攻 3 年
歌野 実	製品デザイン専攻 3 年
喜田 夏美	製品デザイン専攻 3 年
北野 実優	製品デザイン専攻 3 年
木戸 宏大朗	製品デザイン専攻 3 年
吉良 あづみ	製品デザイン専攻 3 年
黒田 裕晟	製品デザイン専攻 3 年
小林 咲輝	製品デザイン専攻 3 年
菅原 菜月	製品デザイン専攻 3 年
杉本 千夏	製品デザイン専攻 3 年
田中 一寛	製品デザイン専攻 3 年
谷 水彩紀	製品デザイン専攻 3 年
仲座 華那	製品デザイン専攻 3 年
成瀬 真歩	製品デザイン専攻 3 年
畑本 宗俊	製品デザイン専攻 3 年
藤田 桃歌	製品デザイン専攻 3 年
本間 智大	製品デザイン専攻 3 年
正木 夏穂	製品デザイン専攻 3 年
ラトール 榛士	製品デザイン専攻 3 年

[開発日程]

2022 年

7 月 29 日 事前打合せ
8 月 2 日 プロジェクト開始 / 事前調査依頼
10 月 4 日 調査結果報告 / ワークショップ
10 月 21 日 中間発表 / コンセプト決定
11 月 18 日 最終プレゼンテーション
11 月 19 日~ 報告書作成



中間発表



最終プレゼンテーション

155

これからの移動 2035

デザインは時代に合わせながら、豊かな生活を目指して研究され、成熟した現在の暮らしがある。一方で、こうした生活の裏には行き過ぎた資源の消費が地球環境問題や、エネルギー問題として取り上げられ、持続可能な社会を維持するには、大きな変革が求められている。こういった背景をふまえ、本年度のテーマは「これからの移動 2035」とし、物理的なモノや人の「移動」だけでなく、感情や意識の「移動」など広く捉えて研究をスタートさせた。ビジョナリーシンキングの手法は、自己と向き合い自分を知ることから始め、自分は何に興味があり、何を信じ、何を大切にしている、何を美しいと思っているのか。その中で見出された野性的な感性がビジョンに影響を与えて未来を切り拓く独自の概念が生まれる。100年先を見据えるビジョンメイクが世界を大きく動かす時代だからこそ、この思考法が重要だと言える。

今回も、スズキデザインのメンター3名と共に、未来洞察を行い社会正義や効率論だけではなく、人間らしい喜び、楽しさなど様々な切り口から、持続可能な未来の「移動」を提案することができた。



展示会場にてパネルセッション



冊子 2022 発行

[委託者]	
スズキ株式会社	
[期間]	
2022年4月—2023年3月	
[研究体制]	
授業導入型	
[担当教員]	
浅野 隆	教授 デザイン科製品デザイン専攻

[参加学生]		
メンター	結城 康和	スズキ株式会社
リーダー	田中 一貫	製品デザイン専攻3年
	仲座 華那	製品デザイン専攻3年
	黒田 裕晟	製品デザイン専攻3年
メンター	小笹 哲哉	スズキ株式会社
リーダー	木戸 宏太郎	製品デザイン専攻3年
	畑本 宗俊	製品デザイン専攻3年
	本間 智大	製品デザイン専攻3年
	喜田 夏美	製品デザイン専攻3年
メンター	服部 泰幸	スズキ株式会社
リーダー	歌野 実	製品デザイン専攻3年
	北野 実優	製品デザイン専攻3年
	正木 夏穂	製品デザイン専攻3年

[開発日程]	
2022年	
3月～	ガイダンス、事前課題
4月5日	事前課題発表・メンター紹介とチームミーティング
4月11日	前期授業スタート
4月28日	合同中間発表(アイデア確定)
5月11日、12日	PSスケッチワークショップ
5月18日、19日	CMFワークショップ
5月27日	最終CG完成 合同ミーティング
6月7日	パネル・冊子データ完成
6月9日、10日	最終プレゼンテーション
9月26日～29日	しいのぎ迎賓館で展覧会・公開プレゼンテーション
10月1日	落合第一客員教授にプレゼン・講評会



座談会動画上映



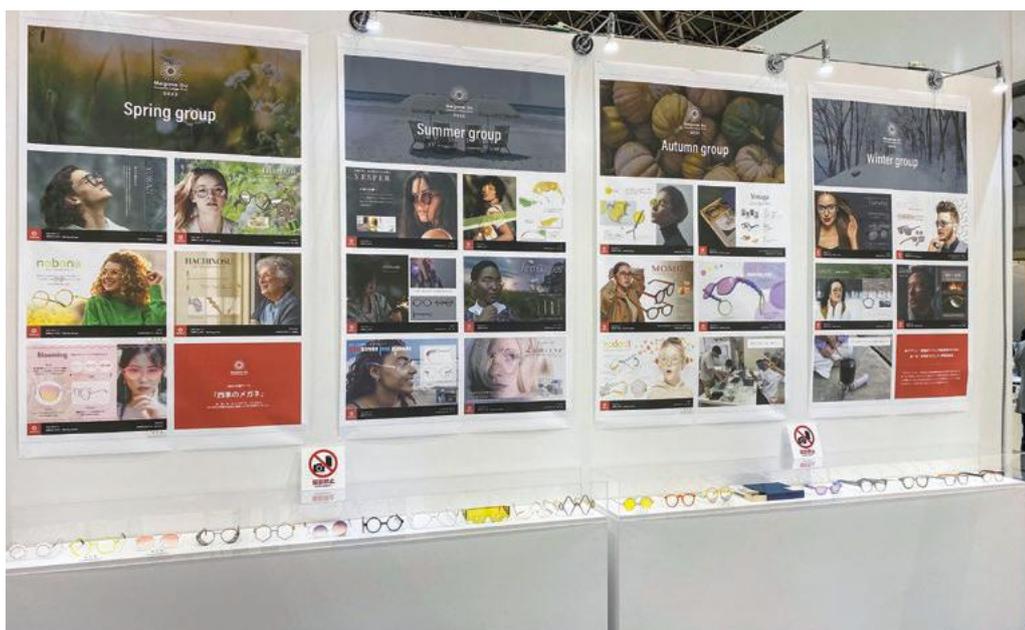
落合第一客員教授にプレゼンテーション

156

新しい価値を持った メガネフレームのデザイン研究 「四季のメガネ」

福井県眼鏡協会との産学連携は今年度で21年目。他大学では類を見ない学生主体の「メガネ部」部活動としての受け入れ体制で、情報の引き継ぎ、ノウハウの蓄積、上級生から下級生への専門的なデザイン指導など、年々研究は深化している。

今年度は3年生をリーダーに4つのグループに分かれ、テーマを「四季のメガネ」としてそれぞれ個人のデザイン提案20案をパネルとモデルで行った。作品はIOFT国際メガネ展（東京ビックサイト）に出店し公開した。また、今年度はコロナ禍ではあったが、3年ぶりに鯖江の産地工場見学を開催することができた。メガネミュージアム見学や、フレーム製造の見学に加え、金属メッキやレンズの色染め体験などもできて、充実した産地見学会となった。



IOFT 国際メガネ展で展示



最優秀賞・優秀賞・特別賞



メガネミュージアム見学

[委託者]

一般社団法人 福井県眼鏡協会

[期間]

2022年5月—2023年3月

[研究体制]

プロジェクト型

[担当教員]

浅野 隆 教授 デザイン科製品デザイン専攻

[参加学生]

<春班>

リーダー 菅原 菜月 製品デザイン専攻3年
小林 咲輝 製品デザイン専攻3年
稲葉 紀乃 製品デザイン専攻1年
栗原 優佳 製品デザイン専攻1年
馬杉 帆々香 視覚デザイン専攻1年

<夏班>

リーダー 喜田 夏美 製品デザイン専攻3年
成瀬 真歩 製品デザイン専攻3年
畑本 宗俊 製品デザイン専攻3年
畝野 遥 製品デザイン専攻1年
戸塚 昂 製品デザイン専攻1年
福田 結菜 製品デザイン専攻1年

<秋班>

リーダー 市川 玲音 製品デザイン専攻3年
杉本 千夏 製品デザイン専攻3年
加藤 愛理 製品デザイン専攻1年
佐竹アリアシア真南実 製品デザイン専攻1年
山西 優心 製品デザイン専攻1年

<冬班>

リーダー 谷 水彩紀 製品デザイン専攻3年
本間 智大 製品デザイン専攻3年
多田 千尋 製品デザイン専攻1年
西田恵美里 製品デザイン専攻1年

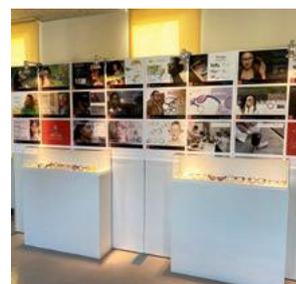
[開発日程]

2022年

4月～ 部員募集告知
4月22日 メガネ部紹介ガイダンス
アイデア検討
7月21日 中間プレゼンテーション
オンラインにより産地デザイナーも参加
班ごとのメンターになってもらう
8月10日 産地見学
産地デザイナーとのオンライン意見交換会
デザイン決定、パネル、モデル制作
9月27日 最終プレゼンテーション
10月18日～20日 IOFT国際メガネ展出展・視察
11月3日～5日 美大祭で展示



産地工場見学

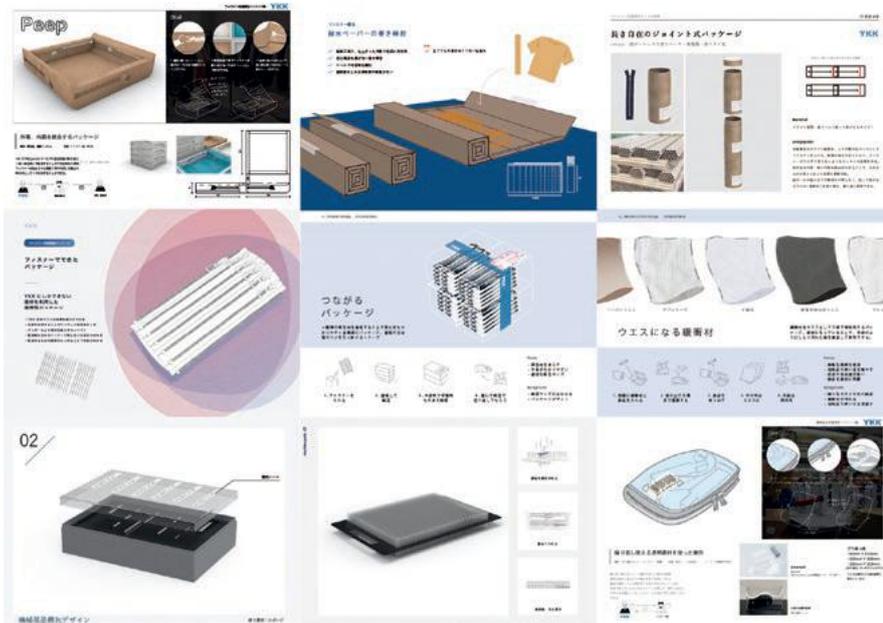


美大祭で展示

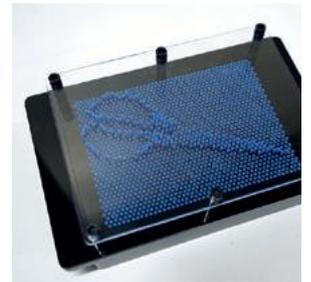
プラ包装レス梱包 デザイン及び運用方法の研究

YKK 株式会社では、「YKK サステナビリティビジョン 2050」持続可能性目標を掲げ、2021 年よりファスニング商品の運搬に使用される内包材のプラ包装材を持続可能な素材に切り替えてきた。しかし、包装材はワンウェイ利用で根本的なプラ包装削減が課題となっていた。また、ファスナーを製作する機械部品の運搬では、通い箱とプラ包装材が併用されており、プラ包装のワンウェイ利用がここでも課題であった。これらの課題の解決を目指して、本研究を学生たちと取り組んだ。

第 1 フェーズでは、20 名の学生がファスニングと機械部品それぞれの梱包方法を 1 案ずつ考案し合計 40 案を提案した。第 2 フェーズでは 11 案に絞り、実際の使用に耐えうるプロトタイプを試作を行った。試作品は、社内の関係部署で使用してもらい評価をいただいた。学生たちは、自分が提案したデザインに手応えを感じると同時に、リアルな現場での問題解決の難しさを実感できる良い機会となった。今後、それぞれのアイデアがさらに検証され、実用化に向けて検討される予定である。



第 1 フェーズアイデアの一部



第 2 フェーズプロトタイプ試作確認



第 2 フェーズプロトタイプ試作確認

【委託者】

YKK 株式会社
テクノロジー・イノベーションセンター

【期間】

2022 年 5 月 - 2023 年 3 月

【研究体制】

授業導入型

【担当教員】

根来 貴成 教授 デザイン科製品デザイン専攻
浅野 隆 教授 デザイン科製品デザイン専攻

【参加学生】

一本木 幸紀 製品デザイン専攻 4 年
岡橋 李笑 製品デザイン専攻 4 年
小畑 芽音 製品デザイン専攻 4 年
籾 佑伽 製品デザイン専攻 4 年
梶原 万穂 製品デザイン専攻 4 年
木下 航輔 製品デザイン専攻 4 年
齋藤 柚香 製品デザイン専攻 4 年
實淵 諒 製品デザイン専攻 4 年
島崎 紗栄 製品デザイン専攻 4 年
高瀬 睦 製品デザイン専攻 4 年
鷹野 すみれ 製品デザイン専攻 4 年
中根 海人 製品デザイン専攻 4 年
中根 康博 製品デザイン専攻 4 年
野中 明斗 製品デザイン専攻 4 年
原 周平 製品デザイン専攻 4 年
廣瀬 由羽 製品デザイン専攻 4 年
堀内 太郎 製品デザイン専攻 4 年
松野 修誠 製品デザイン専攻 4 年
宮崎 貴裕 製品デザイン専攻 4 年
山下 聖奈 製品デザイン専攻 4 年

【開発日程】

2022 年
5 月 24 日 事前ミーティング
5 月 30 日 オリエンテーション
6 月 7 日 YKK センターパーク
丸屋根展示館見学・
中間プレゼンテーション
6 月 15 日 第 1 フェーズ
最終プレゼンテーション
7 月 27 日 第 2 フェーズ
選抜アイデア打ち合わせ
8 月 29、31 日
プロトタイプ試作
図面打ち合わせ
9 月 14 日 プロトタイプ試作打ち合わせ
9 月 29 日 プロトタイプ試作確認
10 月 ~ 12 月
YKK にてプロトタイプ評価
12 月 23 日 YKK より評価報告



YKK でのプレゼンテーションの様子



YKK50 ビル エントランスホールにて

東北レインボーハウス ワークショップのデザインと実施

東北レインボーハウスは2011年の東日本大震災で家族を失った子どもたちの心のケアの拠り所として、あしなが育英会が仙台、石巻、陸前高田の3箇所で運営を行っている。

この事業は製品デザイン専攻の有志の学生たちと三谷産業が2016年に「ものづくりワークショップ」を石巻レインボーハウスで開催したことが始まりで、以後石巻で毎年ワークショップを開催してきたが、今年度から仙台レインボーハウスに場所を移し行うことになった。

参加学生たちは、ワークショップの全体プランの計画、準備、制作、実施までを行っている。新型コロナウイルスの感染状況などを考慮しながら対面とオンラインの両方の可能性でプランを進めた。毎年参加される方もおり、ワークショップの内容は毎年新たなものを考えている。今年度はジオラマ製作、輪ゴムで飛ぶプロペラ飛行機とグライダーの制作を行い、制作後は全員のジオラマを集めて撮影し、飛距離を争う競技会を行った。一人ひとりが制作を行いながら最後はみんなで楽しめるワークショップとなった。



ワークショップで制作したジオラマ



ワークショップのフライヤー



参加者とのミーティング



制作ワークショップの様子



完成した飛行機を飛ばす

【委託者】

三谷産業株式会社

【期間】

2022年4月—2023年3月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

安島 諭 教授 デザイン科製品デザイン専攻

【参加学生】

廣瀬 由羽	製品デザイン専攻4年
菅原 菜月	製品デザイン専攻3年
阿部 真子	環境デザイン専攻3年
中村 彩	環境デザイン専攻3年
泉 泰平	製品デザイン専攻2年
龍田 あかり	製品デザイン専攻2年
竹廣 三四郎	製品デザイン専攻2年
藤井 香菜子	修士課程 製品デザインコース1年

【開発日程】

2022年

6月26日	キックオフ学内ミーティング
7月3日	学内メンバーミーティング
7月7日	企画案プレゼンテーション
7月22日	実施案のフィードバック
8月19日	実施案プレゼンテーション フライヤー案送付、製作開始
9月2日	仙台会場下見・打ち合わせ
9月14日	材料・説明書発送
9月18日	ワークショップ
12月8日	記念色紙の制作・送付

159

冬季イルミネーションの空間演出計画

金沢村田製作所の従業員や会社を訪れた人たちに楽しんでもらうため、敷地内に夜だけでなく昼も楽しめるイルミネーション作品を約1年かけて制作した。

「村田製作所の部品は実は身の回りにたくさん隠れている」というところから発想し、「Find Out」というコンセプトを立て、3つの光のオブジェを制作した。その一つである「VISION」は、一歩先をいく近未来のイメージをミラーフィルムで囲われた三角錐の構造体と発光ダイオード(LED)の装飾で幻想的に空間を演出した。昨年のオブジェに使われた素材を加工して再利用するなど環境にも配慮している。

デザイン提案したものが実際に実寸で完成したこと、多くの方の感想や意見をフィードバックしていただく貴重な機会をいただいたことにより大変充実した研究となった。



全体空間



光のオブジェ「VISION」



最終デザインプレゼンテーション

【委託者】

株式会社金沢村田製作所

【期間】

2022年4月—2023年3月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

畝野 裕司 教授 デザイン科環境デザイン専攻

【参加学生】

児玉 菜緒 環境デザイン専攻3年
 中村 彩 環境デザイン専攻3年
 鈴木 快千代 環境デザイン専攻2年
 山根 里利佳 環境デザイン専攻2年

【開発日程】

2022年
 4月12日 キックオフ打ち合わせ
 5月17日 アイデア方向性確認
 打ち合わせ
 6月23日 中間デザイン
 プレゼンテーション
 7月26日 最終デザイン
 プレゼンテーション
 10月20日 施工状況現地確認
 11月10日 活動報告会・点灯式



点灯式・取材風景



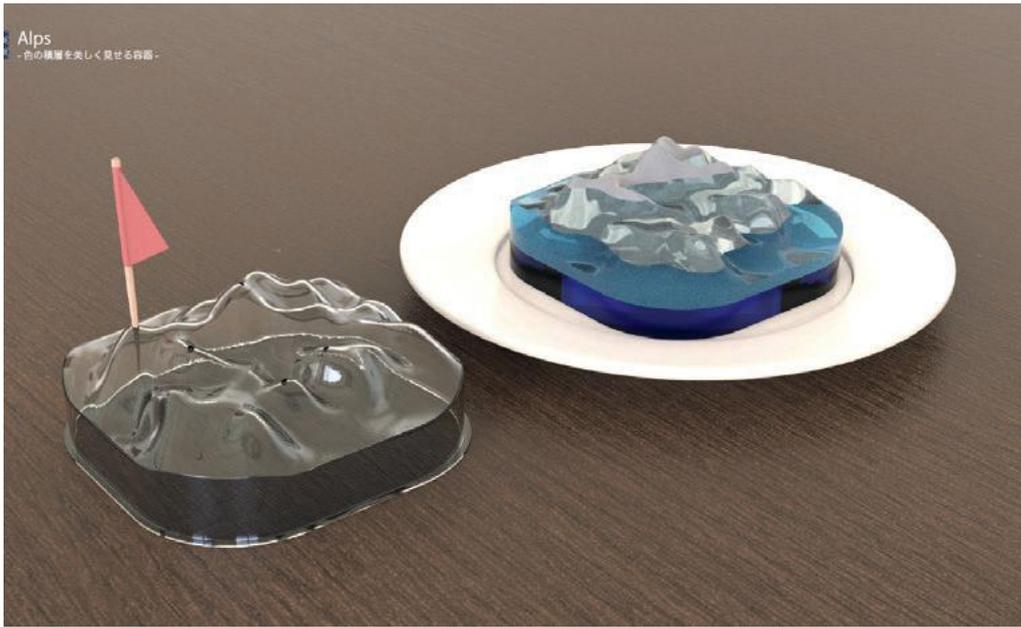
点灯式

160

「金沢をイメージした水菓子容器の開発」 デザイン研究

みなさんも一度は、お菓子のパッケージにつられて、思わず手を伸ばして購入してしまった経験があるのではないのでしょうか？

商品のパッケージデザインは売り上げを左右する重要な要素の一つです。また、お菓子業界は、消費者のデザイン嗜好や好感度が時代や情勢によって移り変わっていくため製品の入れ替わりが激しい業界でもある。そんな中で、私たちは、和菓子の定義を議論し、金沢らしさを深掘りして思わず手に取りたくなる独自性や美味しそうに見え、楽しさを感じさせる共感性に着目し変化に富んだ一歩先を行く水菓子容器のデザイン開発に取り組んだ。



Alps 色の積層を美しく見せる容器



中間プレゼンテーションの様子



最終プレゼンテーションの様子

【委託者】

馬場化学工業株式会社

【期間】

2022年6月—2023年3月

【研究体制】

プロジェクト型

【担当教員】

畝野 裕司 教授 デザイン科環境デザイン専攻

【参加学生】

明石 怜旺	環境デザイン4年
金子 率	環境デザイン3年
森川 羽月	環境デザイン3年
門脇 春風	環境デザイン2年
仮屋 柊元	環境デザイン2年

【開発日程】

2022年

6月23日 キックオフMTG
6月29日 昨年のプロジェクト報告会
8月26日 水菓子購入体験調査
9月20日 フラッシュアイデア発表会
10月21日 ラビットモデル確認1
11月18日 ラビットモデル確認2
12月12日 中間デザイン
プレゼンテーション

2023年

1月12日 ラビットモデルのリアル評価会
2月16日 最終デザイン
プレゼンテーション



石垣羊羹 好きなサイズを選べる容器



水引容器 水引を取り入れた



X n 個性的な形に切り分けるカッター付き容器



A07

A07 北陸銀行 金沢中央支店における作品展示

A07

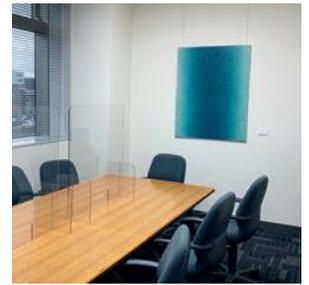
本企画は本学と北陸銀行の連携協力に関する協定に基づき、学生の研究成果発表の場を提供するとともに、文化芸術を地域社会に発信する機会とするものである。

銀行内の応接室や会議室などに、本学修士課程絵画専攻学生の作品を展示することで、職場環境に潤いを与えるとともに、行員はもとより来客等にも絵画を鑑賞する場を提供し、芸術による豊かな空間を創出している。

北陸銀行 金沢中央支店における作品展示



作品展示作業



仁藤 里誉渚 「さざめき、ささやく」



新酒谷 祥加 「カイジュウ」

【委託者】
株式会社 北陸銀行 金沢中央支店

【期間】
2022年11月—2023年11月

【研究体制】
プロジェクト型

【担当教員】
松崎 十朗 教授 美術科日本画専攻
三浦 賢治 教授 美術科油画専攻

【参加学生】
新酒谷 祥加 修士課程 絵画専攻日本画コース1年
新藤 美希 修士課程 絵画専攻日本画コース1年
仁藤 里誉渚 修士課程 絵画専攻油画コース1年



新藤 美希 「晩降ち(あかときくたち)」



仁藤 里誉渚 「無題 II」

